

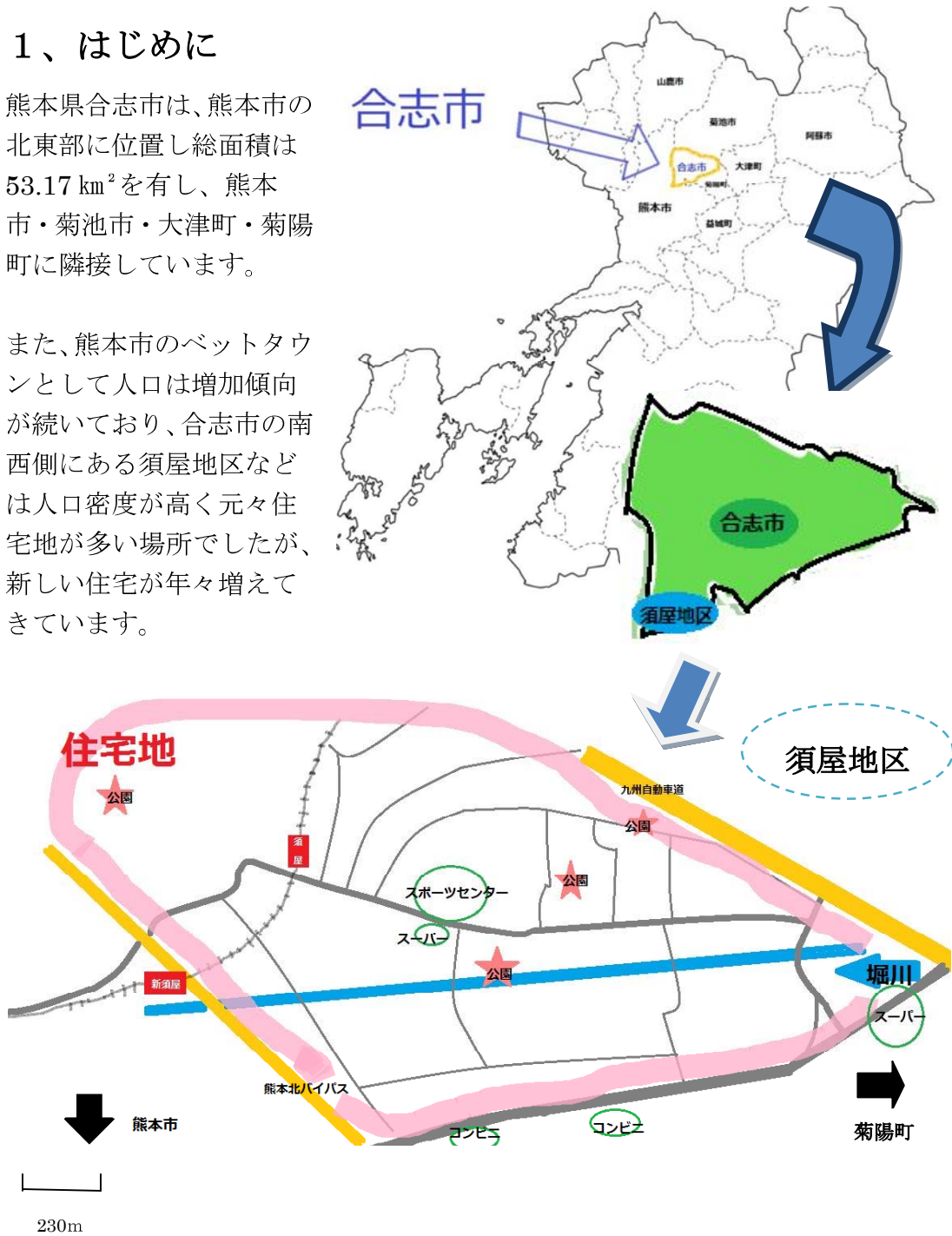
～堀川を主軸としたまちづくり～

(合志市須屋地区)

1、はじめに

熊本県合志市は、熊本市の北東部に位置し総面積は53.17 km²を有し、熊本市・菊池市・大津町・菊陽町に隣接しています。

また、熊本市のベッドタウンとして人口は増加傾向が続いており、合志市の南西側にある須屋地区などは人口密度が高く元々住宅地が多い場所でしたが、新しい住宅が年々増えてきています。



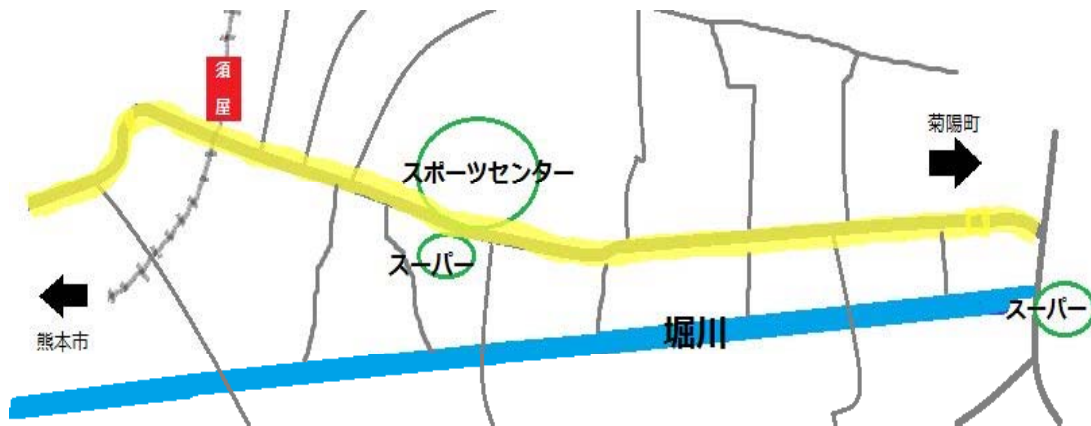
2、問題点

(1)道路の利用について

元々あった住宅、年々増加する住宅の人々に対応した安全で快適な道路がないことが挙げられます。

～現状～

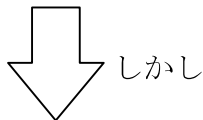
移動は自家用車に頼っており一家庭に2台は当たり前の地域です。



住民の利用に加え、通り抜けする利用者により交通量が多いのは熊本市→須屋地区→菊陽町方面に繋がっているスポーツセンター・スーパー前の道(黄色線)です。地図の左側から須屋駅までは2車線で歩道も整備されていますが、それ以降右に続く道路は歩道もなく一車線であり路側帯があるだけで、道路横には住宅が並び見通しも悪い場所です。

しかし、須屋駅・スポーツセンター・スーパーに行ける主軸となっている道路なので、お年寄りや小学生など高齢者、若年層の歩行者や自転車などの利用も多い場所です。

スピードを出していく車も多く、過去に自転車対自動車の小学生の死亡事故も起こっている比較的安全性が低い場所です。



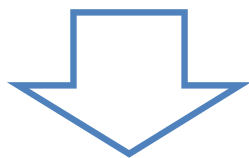
歩道を整備したくても、整備できない理由として

- ・道路幅が狭く歩道をつくる余裕がない。
- ・住宅が道路のすぐ横に続いて建っているため空いた土地もなく、住宅を撤去してもらうのも困難なこと

など原因があり、物理的に歩道整備は困難なことが分かります。

(2)宅地などの増加による自然の不足

前述しましたが、年々住宅が増えて林や畑などの自然環境がなくなってきています。今後も土地の住宅利用などが増え、既存の自然が減少するでしょう。しかし、道路に対する街路樹なども整備されておらず、自然的ものは減少する一方です。



この2つの問題点について…

合志市のまちづくりの基本理念「人と自然を大切にした協働によるまちづくり」を目指したものにしたいと思いました。

(基本方針)

- ・人々が安全に安心して暮らせるまちづくり
- ・みどり豊かな環境と共生するまちづくり
- ・働く人々が輝き続けるまちづくり
- ・みんな元気で笑顔あふれるまちづくり

3、具体的提案

～須屋地区を東西に横断している堀川の利用～

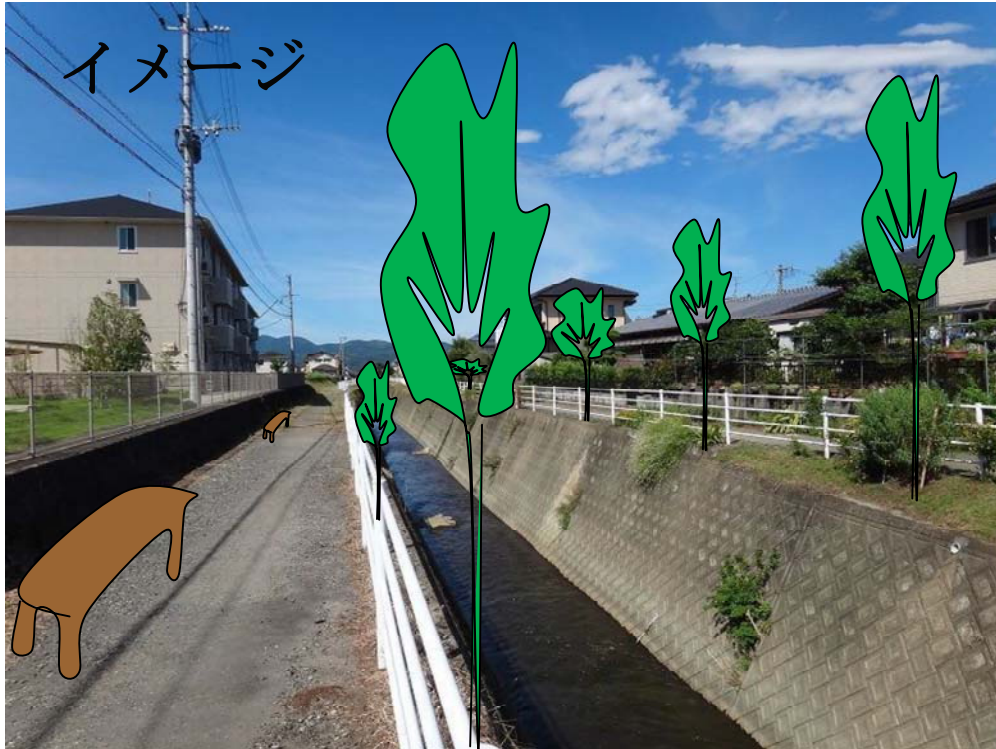
堀川の両岸は舗装されていないところがほとんどですが、元々ウォーキングや犬の散歩などで利用する人が多い道です。自動車が通る道ではなく、バイクなどもほとんど通らない場所なので歩行者や自転車にとっては安全性が高い場所です。



この堀川沿いの道を主軸とした安全で緑豊かな道を提案します。

(1)自然を取り入れる

堀川沿いに視界が悪くならない程度の街路樹を植える。



街路樹による ・景観の向上(みどり)

・日陰の確保→涼しさ(夏場) が期待できます。

(2)椅子・水道の設置

堀川沿いを歩いている高齢の方が疲れて地べたやちょっとした石に座っているのを何度か見かけた事があります。一直線で疲れるお年寄りの方もあるので、一休みできる椅子を通行の邪魔にならないよう設置する。水の補給場として人、または散歩に来ている犬たちも利用できます。

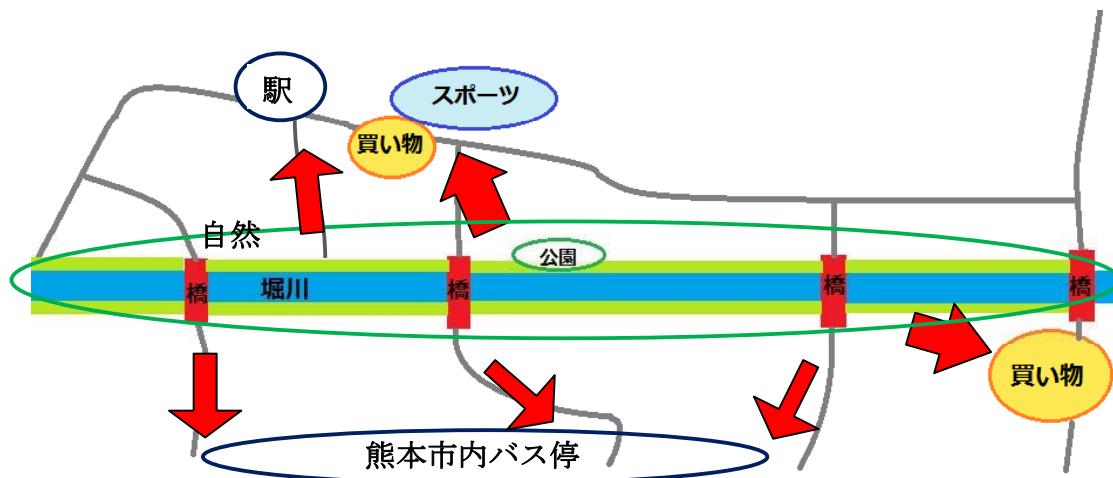


上のイメージのように椅子を設置することで、

- ・歩くという中で休憩ができる。
- ・座ってのんびりした時間が過ごせる。
- ・ちょっとした交流の場になる。 ことが期待できます。

「堀川沿いを歩こう！」という人が増えると期待できます。

(3)堀川沿いを主軸においたまち (約 2,5 km)



堀川沿いの道を主軸に歩行者・自転車・電動車いすなどの移動を行う。

- ・交通的安全性が高い。
- ・自然に触れることができる。
- ・地域の人々と「こんにちは」「おつかれさま」など交流が生まれる。
- ・自動車から離れ運動不足が解消される。

ことなどが期待できます。



4、目指せるまち

このように堀川をこの地域に主軸となる道にすれば

「緑が楽しめる・歩ける堀川沿い」が須屋地区の新しい価値になると思います。

- ・歩けるけど、自動車の方が早くて便利と自動車を使っていた人々も「ちょっとそこまでなら天気もいいし川沿いを散歩がてら行こうかな!」と利用する。
- ・自動車の多い危険な道路を一系列になって歩くより、少し遠回りだけど川沿いを歩こう!と利用する。元々この地域は、生活の必需品をそろえるスーパーや公共交通機関(電鉄・バス)は歩ける範囲(十数分程度)にあります。ただ都会ではないので行きたい場所になかなか公共交通機関では不便で自家用車が増えました。職場に通勤しないといけないという場合には無理かもしれませんが、お昼ごはん・夕飯を買いに行く、休日に熊本市内にいくなどという時には川沿いは利用しやすいと思います。そんなふうにご利用者が増えて、危険な道路の自動車の数も減り、また、川沿いが地域の人が交流しあえる温かい道になったらいいなと思います。